

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>. 理念に基づく運営</p> <p>1. 理念と共有</p>			
<p>1 地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>当運営理念にも挙げている通り、「安らぎを持って自分らしく生きがいの持てる生活」を目標に、ケアサービスにあたっている。</p>		
<p>2 理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念を名刺サイズし各スタッフがネームバッチの裏などに入れて常に持ち歩き忘れることのないようにいつでも目を通せるようにしている。</p>		
<p>3 家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議を通して地域住民、入居者家族へ説明し、地域との繋がりについてその都度説明、理解を得るようにしている。</p>		
<p>2. 地域との支えあい</p>			
<p>4 隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>運営推進会議にてその都度議題を挙げ、行事等色々参加を促している。月に1回の市の広報誌の配達や日常の散歩等町内会の方々は快く挨拶してくれる。</p>		<p>まだまだ地域との交流が少ないと思われる。町会長など一部の人の来訪などはあるが一般の方にはなかなか遊びに来てもらうこともない。これから行うグループホームでの行事などにも参加してもらい、きっかけを作りいつでも気軽にお茶など飲みに来て貰える様にしたい。</p>
<p>5 地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>老人クラブで行われているスロットボールなども誘いがあったが入居者さんに理解出来る方がいなかったため参加はしていない。</p>		<p>当グループホームでもスロットボールを行っており、他の方と一緒にやっても出来る様なのでこれからは参加していきたい</p>
<p>6 事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議にて町内会に在住している高齢者数を把握し、敬老会やボランティアが来訪した際は気軽に参加してもらえよう福祉部等に連絡している。</p>		<p>運営推進会議にて町内会の防災訓練の際に車椅子を持って参加する予定。地域の皆さんに車椅子の使用方法などや実際に体験してもらう等、を予定している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	前回評価して頂いた際には要改善点は無いとのものでした、スタッフにその事を報告し今後の運営体制について話し合いを行っている。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回の運営推進会議以外での出入りは現在までほとんどなく、あいあいより市役所へ行き制度改正にて助言を頂いたりしている。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	現在市役所職員による運営推進会議以外での出入りは現在までほとんどない、あいあいより市役所へ行き制度改正にて助言を頂いたりしている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	現在入居者で制度を利用しなければならない方はおらず、学ぶ機会等行っていない。		今後必要とする方も入居する事も考えられるのですぐに対応できるように勉強会等開きたい。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	昨年度より「身体拘束委員会」を設置して会議にて実態把握に努めている。又外部で行われる研修会にもゆうゆうのスタッフが参加しその報告会も行っている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約をする際は家族と一緒に重要事項説明書、契約書を一緒に読み確認してもらってから捺印してもらっている。又、疑問点や質問など訊ねてもらう時間を設け、解約時も家族にも十分説明し理解を得てから行うようにしている。		
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者さんからの苦情、不満、意見については管理日誌に記載、必要に応じて閲覧可能な状態になっている。又スタッフ間でも十分な話し合いを行い改善に向けた運営を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月、入居者さん個人に対して月次報告書を書いて請求書と一緒に家族に送付している。健康状態、食事、入浴、排泄、睡眠などの事や日常生活の事等を入居者さん1人にスタッフが担当3ヶ月毎交替してマンネリにならないようしている。金銭管理も毎月請求書に預かり金など使用したものは領収書と共に送っている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族より苦情など訴えてきた時はそれを記録し、施設長、管理者、職員に報告しそれを記録して推進会議等のときに報告するようにしている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニット会議を行いスタッフからの意見を管理者がまとめ、施設長との話し合いの機会を設け、意見を反映させている。		今後はユニット会議や施設長との話し合いを定期的に行うようにする。 (毎月)
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	状況に応じてパートの介護職員を配置している。病院受診、行事など事前に予定できる場合は、前もって職員の増員を行う。夜間の緊急時呼び出し体制を作っている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の離職は予測できなかつたり食い止められなかつたりしているが、利用者の影響を考えできるだけ早く新しい職員を採用して引継ぎを行うようにしている。 職員の異動に関しては、ユニットの職員同志の関係、入居者との関係を踏まえて、異動が適切と考えた場合に行っている。(職員の希望を受け入れる場合もある。)		今後は、職員の変化をいち早く察知し、悩みやストレスを緩和して離職しなくてすむよう配慮していきたいと考える。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている。	法人内では、新規職員研修や1年目2年目での研修など、少人数で計画して研修を行っている。法人外の研修も参加するよう声をかけている。必要な研修は運営者、管理者で相談して、出張として職員に研修に参加してもらうようにしている。昨年より法人内で事例発表会を行うことにより、各ユニットで行ってきた介護をふりかえり、また新たな気持ちで介護に取り組めるようにと考えている。		今後は法人外の研修にもう少し積極的に参加するよう勤めていきたい。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者は、胆振地区の広域連絡会に参加し同業者との交流を図り、講演会、勉強会などにも参加してそれを職員に伝えている。		登別地区での交流をもう少し増やして行きたいと考えている。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	ミーティングや法人内研修などでストレスのことを取り上げ、自分だけではなく皆も同じように感じているなど共有しあうようにしたり、人事考課を行いながら運営者と面談の機会を持ち、悩みやストレスに関して話せる場を持つ。また、職員の様子を見ながら必要に応じ、管理者との面談、運営者との面談をその都度行っている。		もう少し職員が相談しやすい状況を考えて行きたいと思っている。
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	業務上の役割や事例をまとめるなど、段階を追って職員に役割を与え、達成感もてるようにしている。		実績を評価して具体的にほめるなど、もう少し職員にわかるように評価してあげたいと考えている。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	電話相談から始まり、その後ご家族からの来訪、又はこちらから伺いご本人も交えて聴く機会を設けて本人達の不安を傾聴姿勢で聞いている。		
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	上記で記載した通りに面談時にお話を聞いている。		
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた際、担当のケアマネジャーにも連絡し他にサービスを含めた対応がないか話し合いをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>26 馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入居前に1度見学にきてもらい雰囲気を感じてもらうようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
<p>27 本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>介護するにおいて「自立支援」も念頭におきながら対応するように努めている。入居者さんの立場に立って考えられるように努めている。又人生の先輩として敬うよう心掛けている。</p>		
<p>28 本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会時など家族の方から不安な事など相談をしてくれたり、又スタッフをも一緒に会話に加わりグループホームでの日常生活などを話している。</p>		
<p>29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>センター方式B4使用にて家族関係を全スタッフが把握。行事等にも参加してもらい、よい関係作りができるように努めている。</p>		
<p>30 馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>毎日日課であった、仏壇にごはんをあげているとの事でお位牌を持参している方もいる。他には家族の写真を部屋に飾ったり、しているが理解できない方が多い。又入居者さんのお友達なども気軽に遊びに来てくれる。</p>		
<p>31 利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>入居者さん同士会話などする人は限られているが出来るだけスタッフが間に入りお互いのコミュニケーションが取れるようにしている。</p>		
<p>32 関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>契約終了(退去)された家族との関わり合いはほとんどない</p>		<p>これから退去される方で関わり合いを必要とされている場合は何らかの形で連絡を取り合ったりしたいと思う</p>
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握			
33 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その都度スタッフ間で話し合い、自発的な発言の少ない方は状況判断し本人がマイナスにならないように検討している。希望、要望についてはその都度迅速に対応するように努めている。		
34 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式B4使用にて生活歴を把握。ご家族にも協力してもらっている。		
35 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	申し送りの際現状把握し、その後スタッフ間で話し合いを行い一人一人のニーズにあった生活ができるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご家族、からケアについての要望、意見を反映し、その後サービス担当者会議を開催し検討して作成している。入居者さん本人からの希望などはなかなか得られない為家族に相談しながら作成している。		
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	その時の入居者さんの状態を観察し必要に応じて、家族などとも相談しながら、介護計画の変更なども行うようにしている。入院後等状況変化した際はご家族、本人にも確認してから変更、新たな作成をしている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	個別に介護記録を記入してその時の入居者さんの様子など記録してもらおうようにしている。特別な事があれば申し送り時には報告をして情報を共有できるようにしている。モニタリングや介護計画変更時などにも活用できるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている。	入居者さんの情報は、上田病 院外来とも連絡を取り合い情 報を共有している。疾病など 家族への説明なども上田病院 院長へ連絡してもらい状況確 認後御家族への説明など行っ ている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じ て、民生委員やボランティア 、警察、消防、文化・教育機 関等と協力しながら支援して いる。	近隣の小学校の生徒との交 流やボランティアグループに おける慰問など年に数回の 訪問がある。消防署は年2回 の避難訓練を通してグルーブ ホームを理解してもらえるよ うにしている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じ て、地域の他のケアマネジャ ーやサービス事業者と話し合 い、他のサービスを利用する 為の支援をしている。	現在他のサービスを利用して いる入居者はいません。		
42 地域包括支援センターとの 協働 本人の意向や必要性に応じ て、権利擁護や総合的かつ長 期的なケアマネジメント等につ いて、地域包括支援センター と協働している。	現在要支援の入居者さんが おらず直接、地域包括支援セ ンターとの協働はないが、常 に情報交換行なっているの で必要性が出た場合は順応に 対応できるようになっている。		
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員 あるいは地域の看護職と気軽 に相談しながら、日常の健康 管理や医療活用の支援をして いる。	看護職員、訪問看護師によ る相談、又月に数回「健康相 談」にて医師が来訪し健康管 理、医療活用支援行っている。		
44 認知症の専門医等の受診支 援 専門医等認知症に詳しい医 師と関係を築きながら、職員 が相談したり、利用者が認知 症に関する診断や治療を受け られるよう支援している。	認知症専門医ではないが上田 病院院長に診てもらい、認知 症に関する相談や治療を受け られる状態になっている。専 門的な認知症の治療が必要に なった場合は紹介状を書いて もらって受診できるようにな っている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確 保している又は、利用者をよ く知る看護職あるいは地域の 看護職と気軽に相談しながら 、日常の健康管理や医療活用 の支援をしている。	看護職員、訪問看護師共に 確保している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>46 早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>早期退院に向けて関係者との連絡、調整行い、入院時にも介護添書を提出している。</p>		
<p>47 重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>終末期の覚書、入居時に終末期について説明、同意を得ている。</p>		
<p>48 重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>看取りに関する指針にて看取り介護の実施方法等記載、変化に備えて検討もしくは実施できるよう準備している。</p>		
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>入居時引越しの際にはできるかぎり今まで使用していた家具や寝具を持ってきてもらって使用してもらっている。特に大きな混乱は現在まで見られていない</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>各スタッフに対して「言葉かけ」に対しては常日頃注意して声かけし、その方、その方に対しての性格の違い等注意するようにしている。記録、個人情報に関しては取り扱いはしているが各ファイルにて柵に厳重に保管している</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>飲み物、食べ物の好み、日常の生活においてその都度本人に聞くようにして納得してから行動をしている。入居者さんが自分で決定したりする事が無理な人もおり家族と相談しながら支援している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	上記にて対応はしているが意思の疎通がうまくできない人もいるため、家族などの意見を聞きながら支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	理容、美容については2ヶ月に1度美容師さんにきてもらいユニットで散髪、カットなどをやってもらっている。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者さんの中で家事の手伝いの出来る方は1名しかおらずその方のその時の状況にあわせて野菜の皮むきや茶碗洗いなど手伝ってもらっている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	喫煙者はいないが1人お酒を飲む方がいる家族とも相談をして1日3杯までと決めている。おやつなどは本人の好みを聞きながら提供するようにしている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄に関してはリハパン使用者が半数を占めている。時間毎のトイレ誘導、声かけ誘導など行っている。尿意を感じている方に関しては出来るだけトイレで排泄できるよう声かけ誘導し排尿パターンなども記入している。また自力でトイレに行く方もトイレの床の汚染があり出た後にスタッフが掃除をしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入居者さんや家族の希望を聞きながら入浴して貰っている。最低週2回入浴してもらうようにしているがその時の状況により清拭のみで済まず事もある。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入居者さんの状況に合わせて入眠出来るようにしている。夜間の徘徊者や声出しする方などもある為他の入居者さんの妨げにならないように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	入居者さんの好みや出来る事など観察し本人が楽しんで出来る事など探し出しながら支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を所持している人は1名で他の人は自分で管理が出来ない事もあり、各入居者さんで預かり金として事務所へ保管。いつでも使用できるようにしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	冬場以外は出来るだけ外にでて日光浴、散歩に出かけている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	近隣の公園や水族館、壮瞥へぶどう狩り等へ出かけている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙は現在書く方はいないが電話をかけたいと言う場合は1階公衆電話にて自らお話している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問者来訪の際はゆっくり過ごせるようにスペースを確保。お茶を提供しゆっくり会話してもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置。オープンしてから現在まで拘束は行っていない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は常にリビングにスタッフが残るようにして入居者さんが誤って外等へ1人で出かけてもすぐに対応できるようにしている。鍵に関しては自ら出てしまう方がいて入り口ドアに施錠をしているが、その方の外泊時などは施錠はしていない。		今後施錠を外すようにスタッフとも話し合っている。
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	昼間は1時間毎に夜間は2時間毎に所在確認、又は見廻りを行っている。		徘徊者や歩行が不安定な人がいるので常に見守りをし安全を確認できるようにスタッフ全員が話しあっている。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	各スタッフが保管場所を統一して覚え、夜寝る前等に確認するようにしている。危険な物に関して(はさみ等)はきちんとタオル等で保護しているか確認している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハット事故報告書作成し作成時にスタッフ間で話し合い改善方法を話し合っている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時対応等マニュアルにそって定期的に確認している。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回避難訓練を行い、できるだけ全てのスタッフに参加してもらっている。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	疾患や転倒等、入居者さんのレベル低下等のリスクに関してご家族に説明を直接又は緊急性のあるものは電話連絡にて対応している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝の血圧測定時、体調不良訴えや常日頃で異変が見られたら早急に看護師へ連絡、スタッフ間も情報共有して対応している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	各入居者さんのファイルに処方箋説明書を入れて各自確認し、新しく処方された薬に関しては申し送りの際記録で確認するようにしている。又症状の変化が見られたら看護師に報告。助言等もらっている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排便表を作成しスタッフが毎日排便の確認を行っている。食事なども主食を麦ご飯や玄米にしたり、寒天を週1回摂取してもらったり、まるヨーグルトにプルーンを入れてたりして便秘対策行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食事後に入居者さん全員に声かけして歯磨き促している。自分で歯磨きが出来ない人もいるので介助している。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	入居者さん一人一人の水分量、食事の摂取量などを各スタッフが記録にて確認し、水分量が少ない人等その方その方の好みの飲み物を提供して対応している。食事でも入居者さんに合わせてミキサー食やきざみ食などその時々で対応している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	スタッフは出勤時必ずうがい、手洗いする。面会者も同様をお願いする。ノロウイルス等に関しては食器類を毎回煮沸消毒している。ドアの取っ手や廊下の手摺の消毒なども毎日行っている。インフルエンザは入居者さんスタッフ全員が予防接種を受けている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	上記記載通りに煮沸消毒行い、まな板や布巾、三角コーナーなども毎日消毒し食材に関しては定期的に配達してもらい生鮮食品は買い物の際必ず賞味期限を確認して買うようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	ピンク色の看板が目印で、玄関周りに花畑を作っている。花畑の前や玄関にはベンチを設置して何時でもお話ができるようにしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間に関しては不快な音、光がないように窓、カーテンを調節。季節感が取れるようにその季節のお花を飾ったり、季節ごとの飾り(クリスマスや正月等)を入り口ドアやリビングに飾っている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファーや廊下のベンチ等各入居者さんが思い思いに一人で過ごしたり、仲の良い方同士で会話したり、お茶を飲んだりしている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に自宅で使っている家具、タンス等そのままお持ち下さいと話している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	日中、夜間共に温度調整はまめに行い、時々窓を開けたりして換気している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	全ての通路に手すりを設置し、廊下も引っかかる物や滑りやすいものがないか環境整備している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	排泄や食事なども声かけし自力で行えるようにしているが理解力の無い方や意思の疎通が出来ない方などもある。自分の居場所が分からず混乱している方もいるが本人の話しを否定せずゆっくり傾聴し、落ち着くのまわっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>87</p> <p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>外の花畑の前にベンチを置き、日中皆さんで日光浴行なっている。</p>		

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)